

「凜々しく生きたい」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ デルフィニウムは教えてくれる

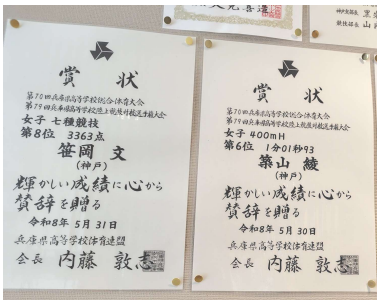
夏が訪れ、部活動の代替わりが進んでいます。校長室をいつも飾ってくれる華道部ですが、先日はいよいよ2年生が花を持参してくれました。メッセージが添えられています。

「凜とした立ち姿を見せてくれるデルフィニウム。いくつもの小さな花が集まることでひとつの大きさを作り出してくれます。水色のデルフィニウムの花言葉は『幸せや壮大な心』です。ひとつひとつのささいなことが積み重なることで、実感できるほどの幸福が生まれているのだと、気づかされたようです。元気に生けられたバラとともに、凜々しく生けられたデルフィニウムは私たちにそっと『幸せであるように』と祈ってくれているのかもしれないですね。『校長先生にかわいがってもらえますように』とお祈りしています！」



一輪で華やかなバラと、幾つもの花が集まり美しい立ち姿を見せるデルフィニウム。その対比が実に鮮やかです。以前、お伝えしましたが今年度の私は校外の役割が多く、よく学校を離れています。そんな日常は楽しくないですが、私を支えてくれる言葉があります。対面式のときに1年生の山口拓真くんが伝えてくれた言葉。「街と海を見下ろす、この恵まれた環境で学べることに感謝して1日1日を大切に過ごしたいです」

皆さんとともにいる限られた1日1日をどう大切にするか、そう思いながら私は過ごしています。県総体も可能であればすべての部の応援に出かけたいのですが、それは難しいことです。それでも、馬術部の関西大会当日、三寺希実さんが個人戦でベスト4入りし、3位入賞した団体とあわせて全国総体出場を決めた際、竹内先生はその場から電話で喜びの声を学校に届けてくれました。個人と団体ともに出場するのは本校11年ぶりのこと。その喜びも大きいですが、やはり即座に伝えてくれた竹内先生のお気持ちが嬉しかったですね。



他にも男子卓球部がダブルスでの近畿大会出場を決めたことを森岡先生から、陸上競技部は男子5000mと女子400Hで近畿大会出場を決めたことを池田先生と福田先生から教えてもらいます。女子7種競技での8位入賞も実に素晴らしいことです。

また、男子硬式テニス部が県総体の団体戦でベスト8入りしたことも安永先生からお聞きます。ベスト8のうち公立高校は3校のみとのこと。これも快挙ですね。さらに、安永先生からはボート部が善戦むなしく上位のステージに進めなかったこともお聴きます。「応援していた私も号泣しました」保護者の方から伝えてもらったことも胸に染みました。

勝負事ですから、勝ち負けが大切なのは言うまでもありません。それでも、その決着までに何をどのように積み重ねたかはもっと大切なことかもしれません。高校3年生の時、短距離走者だった私は春先に大腿部を肉離れし、個人での予選出場が叶いませんでした。それでも他に早い連中が揃っていたのでリレーでの全国総体出場のチャンスは残っていました。運よく怪我が癒え、メンバーに戻った近畿総体。でも私はイメージ通りの走りができず、チームの足を引っ張ってしまい、全国出場の夢は和歌山の地で終わりを迎えました。

それから10年の歳月が流れ、県の大きな合宿で高校生の指導を任せただけになった私に、恩師はこう仰いました。「あの時のおまえが今のおまえだったら、全国に行ってたな」と。何も言い返すことができなかったですね。でも、曲がりなりにも私が成長したとしたら、あの時の学びがあったからです。一見ささいなことに見える、ひとつひとつを丁寧に積み重ねないと、大きな目標には辿り着けないと知ったのです。

小さな花であっても、集まることで美しい立ち姿となれることをあらためて教えてくれるデルフィニウム。かわいがらせてもらいますね。そして願います。私たちも、こんなふうに凜々しく生きられますように。